

野菜園芸研究の第一人者のライフワークを集大成

板木利隆 著

施設園芸・野菜の技術展望

半世紀のあゆみ これからの展開

野菜園芸研究の第一人者である板木利隆氏が80歳(傘寿)を迎えたのを機に、千葉大学、神奈川園芸試験場、JA全農営農技術センターの仕事を通じて培った野菜栽培研究のライフワークを集大成した一冊。

日本の野菜園芸とりわけ施設園芸が抱える諸問題を取りあげ、解説し、これからの技術を展望する。

A5判 182頁 定価1337円(本体1238円+税、送料別)

本書の主な内容



第1章 施設園芸の発達と現況

増勢から停滞、そして減少に転じた施設面積/経営農家数は減少、担い手の確保が急務/施設内作業の省力・快適化方策/大規模施設の導入・普及の実態と動向

第2章 温室の設備、機器と環境制御の改善

付帯設備、装置・機器とその選択/施設内の環境制御技術とその改善/野菜の種類別適正温度管理

第3章 省エネルギー技術の変遷と展望

対策技術の開発・推進の経緯/技術の概要と総括/温度管理技術の再検証/省エネルギー・CO2排出削減技術の将来展望

第4章 養液栽培の発達と現状、課題

わが国における養液栽培の発達経緯/代表的な方式・特性と培養液/養液栽培のシステム化と利用の効率化

第5章 野菜苗の大量生産技術・流通の発達と課題

変わる苗生産・流通の事情/セル成型苗、接ぎ木苗生産技術の改良/苗の付加価値向上、人工光閉鎖型生産技術の改良/苗の付加価値向上、人工光閉鎖型

第6章 施設トマトの経営と技術構築、マニュアル化

施設専門の家族経営/大規模の企業的法人経営/新作型「低段密植養液栽培」による周年生産経営

第7章 その他各誌所収の論考

施設園芸における暖房の必要性和暖房方式の特性・選択/気候温暖化で施設園芸はどうか、技術的対応は/トマト作型の過去・現在・未来/望まれる開発新技術のシステム構築と実用効果の実証/野菜と私 一生つき合う友

補章

履歴、研究論文、著書、主な実用化技術

購読申込記入欄

氏名

住所 〒

電話番号

F A X

注文冊数

冊

連絡欄

お申込・問い合わせは、園芸情報センター TEL: 03-3233-3634 / FAX: 03-3233-3666
Eメール: engei@agripres.co.jp